

## 公益財団法人どうぶつ基金要請書（令和4年12月22日）に対する回答に対する反論と再度の要請

2023年1月18日

環境大臣 西村 明宏様

公益財団法人どうぶつ基金要請書（令和4年12月22日）に対して回答をいただきありがとうございます。回答文書を読みましたが、本回答は「捨て猫などが野生化したノネコの捕獲が進んだ効果も大きい」ことを科学的に証明するものではありません。つきましては、本回答に対する反論と再度の要請をいたしますので回答願います。

公益財団法人どうぶつ基金  
理事長 佐上邦久

「2015年(8665.5)から2021年(19558.1)の間でも約2.3倍に増加(回答より引用)」

### 1, ノネコの駆除が行われていなかった

2015年(8665.5)から2018年(13152.6)の間を比較するとアマミノクロウサギの推定生息数は中央値で1.51倍に増加

### 2, 319頭のノネコを捕獲した

2018年(13152.6)から2021年(19558.1)の間を比較するとアマミノクロウサギの推定生息数は中央値で1.49倍に増加

上記1, 2を比較して増加率の変化が、ほぼないことからマングース防除の効果が拡大してきているが、ノネコ駆除の効果は、ほぼ無いと推測できます。

以上のことから、近年のアマミノクロウサギの増加傾向は、今のところ2018年が最後の捕獲となっているマングース防除の効果が拡大してきていることと推測され、ノネコ対策の効果は出ていないと推測されます。あるいは「ノネコの捕獲の効果は認められなかった」と結論できます。

にもかかわらず、

「マングースの駆除に加え、森林の回復や捨て猫などが野生化したノネコの捕獲が進んだ効果も大きい」

という発言はやはり、本回答で環境省が用いた客観的データを無視してノネコ駆除の効果を実証する虚偽発言と言えます。少なくとも「ノネコの捕獲が進んだ効果も大きい」と発表するに至る客観的データではありません。

つきましては

1,

「マンガースの駆除に加え、森林の回復や捨て猫などが野生化したノネコの捕獲が進んだ効果も大きい」という発言を「マンガースの駆除に加え、森林の回復が進んだ効果も大きい。ノネコの捕獲の効果は認められなかった。」に訂正するとともに、国民に対して謝罪を再度要請します。

2,

上記のとおり「ノネコの捕獲の効果は認められなかった」ことを認め「奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画」による猫の駆除を即刻、中止してください。

3,

本要請に対する回答を 2023 年 1 月 27 日までに下記あて E メールにていただきますようお願いいたします。

Email : [contact@doubutukikin.or.jp](mailto:contact@doubutukikin.or.jp)

公益財団法人どうぶつ基金

理事長 佐上邦久（さがみくにひさ）

=====

以下、公益財団法人どうぶつ基金要請書（令和 4 年 12 月 22 日）に対する回答より引用

2021 年の状態空間モデルを用いた個体数推定（以下、2021 年推定）による中央値での経年変化をみると、2003 年（2329.8）から 2021 年（19558.1）の間に約 8.39 倍に増加し、2015 年（8665.5）から 2021 年（19558.1）の間でも約 2.3 倍に増加しています。（表 1、図 1） また、環境省がノネコ対策に本格的に乗り出したのは、奄美大島 5 市町村、鹿児島県と共に奄美大島ノネコ管理計画を策定した 2018 年からのことであり、現状の捕獲体制では奄美大島の 50%程度しかカバーできていないものの、2018 年度から 2021 年度末まで 319 頭のノネコを捕獲しています。（表 2） 2018 年（13152.6）から 2021 年の間を比較するとアマミノクロウサギの推定生息数は中央値で 1.49 倍に増加しています。（表 1、図 1） なお、マンガース防除事業による自動撮影カメラ調査によるアマミノクロウサギの撮影率においても長期的に増加傾向であり（図 2）、各種調査結果や目撃情報を元にしたアマミノクロウサギの生息確認メッシュ（3次メッシュ※2）についても 2015 年以降新たに 85 メッシュの増加が確認できるなど（図 3）、個体数推定以外でも、奄美大島におけるアマミノクロウサギの生息状況が回復傾向であることを示す結果が得られています。以上のことから、近年のアマミノクロウサギの増加傾向は、今のところ 2018 年が最後の捕獲となっているマンガース防除の効果が拡大してきていることに加えて、ノネコ対策の

効果が出ていると推測され、発言の訂正等の必要は無いと考えています。引き続き、奄美大島の生態系の保全のためマングース防除、ノネコ対策、希少種の保護増殖等の取り組みを進めて参ります。

○奄美大島のアマミノクロウサギ推定生息数(速報値)※(沖縄奄美自然環境事務所, 2022)

※中央値である 50%のみ表記

2015 8665.5

2018 13152.6

2021 19558.1

引用ここまで

---

---

#### 1, ノネコの駆除が行われていなかった

2015 年 (8665.5) から 2018 年 (13152.6) の間を比較するとアマミノクロウサギの推定生息数は中央値で 1.51 倍に増加

#### 2, 319 頭の ノネコを捕獲した

2018 年 (13152.6) から 2021 年(19558.1)の間を比較するとアマミノクロウサギの推定生息数は中央値で 1.49 倍に増加

上記 1, 2 を比較して増加率の変化が見られないことからマングース防除の効果が拡大してきているが、ノネコ駆除の効果は、ほぼ無いと推測できます。